

平成 27 年度 第 6 回南伊豆町学校統合審議会議事録

- 1 開催日時：平成 27 年 11 月 9 日（月） 19：00～21：00
- 2 開催場所：役場 3 階 議場
- 3 出席者：出席委員 16 名 欠席委員 2 名 事務局 3 名
- 4 議 事：アンケート調査について
- 5 資 料

会長挨拶 審議会も 6 回目ということで、前回の審議会のあとアンケートを取ってそのとりまとめも出来ました。審議会の方もこのアンケートで地域の様子を知ることが出来たのではないかと思います。

今まで 5 回の審議とこのアンケートの結果でそろそろ答申を纏めていかなければならないかなと思っています。答申の内容はアンケートの結果が全てではなく、一つの資料としておさえながら、どういう形がいいのか探りつつ、まとめていければいいかなと思っています。

よろしくをお願いします。

事務局 今日には会長のお話にもあったように、アンケート結果を参考にしながら、答申の方向性をある程度決めるところまで行きたいと思っています。

そして、アンケートの御協力いただいた方々にお返ししなければいけないので、このアンケート結果をどこまで公表するかも検討していきたいと思っています。

皆様、このアンケート結果について、いろいろご意見、ご感想があるかと思っています。皆様のご意見をいただければと思います。

委 員 アンケート結果を読んだ感想ですが、南上小の保護者は統合しないしてほしいという思い、そしてこの学区が素晴らしいという思いを強く感じました。

統合を考えていくためにいろいろな視野から考えていかなければならないですが、その中の一つとして、保護者の思い、地域

の人たちの思いは大事にしていかなければならないと思います。その中で、保護者と地域の人たちの南上小の子どもたちは本当にいい子たちで、地域とのつながりも大切にしていかなければならないという思いは、重要になってくると思います。

次に、町の予算も考えなければなりません。もう一つは教育的見地からこの統合を考えなければなりません。教育的見地から考えると、小規模校の良さは絶対あると思います。しかし小規模校のデメリットもあると思います。ではその線引きをどうするのか、どこが限界なのかという線を考えなくてはならないのですが、保護者や地域の方の意見を読んでいると、今はまだギリギリやっつけられる人数だと思いました。ただこの先人数が減ってきた場合、統合を考えなければなりません。と思いました。

事務局 委員の経験上、この人数がギリギリですか。

委員 ギリギリと見るかは人それぞれの価値観があるので、違うと思いますが、このアンケートを読み取ると今南上小が素晴らしい教育をしていることが伝わってくるので、今はまだ大丈夫だと思いました。ただこの人数を下回ってくると、本当に統合を考えなくてはならないと思います。どのラインで統合するかはまた検討が必要になってきますが、例えば複式学級が2学級になったら、あるいは、1学年平均5人で、全校で30人を下回ったら統合はやむを得ないとか、この先、「こうなったら」という基準を明確にしておいた方がいいのかもしれないと今は思っています。

委員長 他にご意見はありますか。

委員 南上小の保護者は南上小が好きなのだという気持ちを強く感じました。

先日行われた町のPTAの総会の中で、教育長が町の人口がどんどん減ってきていることが心配だとおっしゃっていました。そして、南伊豆町に戻ってくる子を育てなければなりませんとおっしゃっていました。まさに私たち保護者だけではなくて、地域の人たちが子どもたちと接して、子どもたちに南伊豆はい

い所なのだなという思いをもってもらうように育てなければならぬと、強く思いました。

現状はなんとかやっていける状態だと私も思っています。ただ先ほど他の委員も言ったように、今後人数が減ってきた場合、やはり複式が2学級になった場合は統合を考えなくてはならないと思います。

今回は、南上小の今後のことを考え、そして、南上地区の今後を考えるいい機会だったと思います。地域の声がよく聞こえてきたアンケート結果だと感じました。

委員長

私もこのアンケート結果に地域の人たちの思いがよく出ているなと思いました。しかし、地域の教育が充実している、地域のバックアップもあるという事は、すでに統合した三浜小も南崎小も同じでした。どちらの学校も教育は充実していた。

平成18年の統合審議会の時、南上小については複式学級が解消されない見込みが判明した時は、再度審議会にかけるということで、今回の審議会が開かれているわけです。

ただ、子どもの数は40人から50人の間が当分続くのですよね。今ギリギリやっけていけるので、統合の決め手に欠けているとも思います。そんな中で、文科省が学習指導要領の改訂を打ち出しまして、2020年度から小学校5、6年生に週2時間英語を教科として入れるとなりました。2020年から小学校5、6年生も2時間英語の授業をしなくてはならなくて、今までのALTに助けられてではなく、教師が授業を行わなければならなくなります。そうした時に、小学校で2年間英語の授業を行わなければならないということを、教師はどう思っているのか、私はとても不安に思います。小学校の先生が慣れない英語の授業に取り組んでいく、教師の負担はとても増えていきます。

このような事を踏まえて、どのように答申を纏めていけばいいかなと思うわけです。2020年とアンケートの中に何件か出てきた平成34年がキーワードではないかと思っています。

委員

南伊豆町の100人委員会が開催され、その中で南上地区の戸数が昨年と同じだったのです。老人が亡くなっても若い転入者が増えているのです。これは南上小があるからなのです。教育環境が充実しているから南上を選ぶ移住者が増えているのです。

町も人づくりに関して検討中なのです。急いで答えを出さなくてもいいのではないのでしょうか。

委員

前回の審議会でも南上地区は大きく反対した。それを無理やり統合するのは難しい。

三浜の子どもたちのアンケートを見てみると、「よくわからない」という意見しかないです。「統合しなければよかった」という意見が一つもないのです。あんなに三浜が好きだった子どもたちがですよ。子どもたちの方がよっぽど考えていますよ。今ここでは大人の意見でしか話し合われていないです。三浜小は本当に子どもの数が少なくなってからの統合だったので、子どもたちは本当に苦労したと思います。今思えば、もっと子どもの数が多い時に統合させれば良かったと思います。

委員

南上はいい所だ、だから統合しないという意見を聞いていて、先に統合した南崎の人間としてとても不快感を感じながら話を聞いていました。どの地区にも歴史があって、どの地区もいい所だと思って生活しているのです。お話を聞いていると、本当に子どもたちのことを考えているのかな、親たちのエゴではないかと感じてしょうがないです。これから大人になっていって、少人数の中ではなく、大人数の中でもまれていくことも必要なのではないかと思っています。私は南崎が統合されて良かったと思っています。

委員

10年前の統合審議会では①竹麻小と南崎小の統合と②南中小と三浜小と南上小の統合のという提案できたわけです。①はそのまま統合し、②は南中小と三浜小だけが統合したわけです。一番の理由は教育的観点からです。もう一つ保護者と地区の意向です。①については小規模校の弊害が顕著に表れている、地区の保護者や住民は早く統合して欲しいという意見でした。

②について、三浜小は、教育的観点は何も書かれていなかったのので、特に問題はなかったのだと思います。ただ子どもの人数があまりにも減少してしまっていて、保護者もやむを得ないという判断だったのだと思います。ただ南上小は反対した。だから統合しなかったということです。地区の保護者に温度差があって3校での統合はできなかったということが根底にあるわけです。

そこを考えていかなければならないと思います。

委員長

南崎の統合の時は、保護者がすぐにでも統合して欲しいという考えだったということと、通学の問題がすぐクリアできたというのがあると思います。バスの路線があつて、バス停も学校の目の前で問題がなかったですし。弊害があつたといいますが、なにかあつたのでしょうか。私はあまり記憶にありませんが。

委員

私は今町の教育相談員をしまして、毎週月曜日に各学校を回っています。前回南上小に行った時に授業を見させてもらったのですが、少人数での授業で子どもたちのつぶやきが聞かれるのです。このつぶやきが出る授業をするにはとても大変なことなのです。つぶやきが聞かれる授業はとても素晴らしいなと思いました。

ただ、心配なのは英語教育です。先ほど委員長がおっしゃったように、2020年からです。当然複式では授業できないです。5年生6年生で授業を分けなければならないです。外国語教育では少人数の方が、目が行き届いてやりやすいですが、その時果たして十分な教育体制が確保出来るかは疑問です。

もう一つは統合した後のことです。南中小に3つの学区から子どもたちが集まってきます。それによって大きな制約を受けます。まず一つはバスの時間です。そしていろいろな行事を設定するにも下校時間という縛りが出てきます。もう一つは災害の時の対応です。アンケートにも出ていますが、そこはデメリットの部分になると思います。

ただデメリットばかりを見ないで、どこをどう切り開いて答申に持っていくかを考えなくてはならないと思います。

委員

今回のアンケートはどの保護者も子どものことを考えて答えていると思います。大人が不安や心配を抱えていないで南上小に子供を通わせているという事は本当にいいことだと思います。大人が不安な状態であることが子どもにとってのデメリットになると思います。統合するにしてもしないにしても、大人がもっと前向きな考え方で進めていってほしいと思います。

- 委員 子どもの自己肯定感に関するアンケートが学校で行われて小学生の内に自己肯定感を充実させることが大事だと思いました。大人の口から否定的な事ばかり出るのは、子どもの自己肯定感に悪い影響を与えたいと思います。
南上小の素晴らしい現状をみていて、自己肯定感の充実のために不足はないと思っている。
- 委員長 近い将来統合しなければならない状況になると思います。子どもの人数の減少は避けられない事です。
中学校は部活動の維持が難しくなっていますし、小学校も南上小と南中小が統合しても小規模校のままです。答申は現時点で考えられる一番いい方向で考えていきたいと思っています。
- 委員 アンケートの中で南上小から南伊豆中へいった子どもたちは元気が良いという記述があった。また町の音楽発表会へ行った時に、南上小の子どもたちは少人数ながらも気後れすることなく舞台に上がっていた。これは素晴らしい事だと思います。
- 事務局 今までの審議の中で複式学級が2学級になったら、2020年度、平成34年というキーワードがでてきましたが、それについてはどうでしょうか。
- 委員 やはり複式2学級になったら統合した方が良いと思う。過去の統合でも複式2学級で統合したという事があったようなので、いいのではないかと思います。ただ、今後複式が解消される見込みがあるので、今の段階では統合反対です。
- 委員長 では複式1学級のままなら統合しない。複式2学級になったら統合に向けて考えていく方向でしょうか。
- 委員 アンケートの中で統合を「再度検討する」という項目があったのですが、今後も統合しないという結果になった場合、たとえば1学年1人、2人になった場合も統合しないという事になるのかと思ったら、それはどうなのかなと思って、再度検討するという項目を選んだのですが、その項目を選んだ人でも、いろんな考えがあると思いますが。

- 事務局 先ほど委員長がおっしゃったように、現時点で最良の方法を考えなくてはならないと思います。
- 委員 少人数の特認校という制度があると聞きました。学区を超えての児童の受入は行っていませんか。
- 事務局 行っていません。
- 委員 学区外からの受入をして、小規模校のデメリットがあるのかどうかという検証もしていきたいと提案します。
- 委員 10年くらい前に三浜小でその制度をやってみようかという話になったのですが、とてつもない苦労があって、断念しました。「海の学校」として特区の認定を受けようとしたが無理でした。
- 委員 三浜小が無くなったのは、本当に残念です。
- 委員 少人数になってからではなく、大人数の内に統合した方が良いという意見は分かりますが、今はこども園で一緒になって知り合っているので、全く知らない中に入るわけではないです。そして、現在も行っている小学校の交流をもっと増やしていただければと思います。
- 委員 再度検討するとなった場合、「複式2学級になったら」検討するとみなさんおっしゃっていましたが、複式の弊害はこのアンケートにも出てこないもので、「何人以下になったら」の方がいいと思います。
- 事務局 先生方への配慮も必要になってきます。複式は教員への負担が大きいです。
- 委員 統合しても存続しても地域の人を大切にしなければならないと思います。今だけではなく、5年後、10年後を見据えて考えなくてはならないと思います。

- 委員長 同学年の子が少ない、6年間ずっと複式学級というのはとてもデメリットになると思います。そして、2020年度からの英語教育がとてもネックになってくると思います。
- 一つの目安として、アンケートにも出てきた平成34年というキーワード、もう一つは2020年の英語教育が始まり、教育課程が組めるかという事も判断材料の一つになるのではないかと思います。
- 委員 学級規模の適正化はどれが正しいかはわからない。ただ、今の南上小が限界のラインだと思います。これ以上減るようなら、子どもたちのために統合した方がいいと思います。どこでラインを引くかというのは、やはり複式2学級だと思います。これはちゃんと理由があって、複式2学級だと教員の数が少なくなります。教員が4人になります。その場合複式を解消して授業しようとしても、支援員の配置が無ければ無理です。2020年に新しい学習指導要領に変わろうとするときに、教員の数がいないと難しい事なのです。
- 人数で切ることもわかりやすいですが、学年によって少人数になってしまう場合があります。その時に少人数は嫌なので指定校変更をして違う学校に通わせるという事が出てきます。その時に人間関係にも障害が生じてしまいます。人数は分かりやすいですが、そういうデメリットが必ず出てくると思います。
- そこまで考えると複式2学級が一番の判断基準になると思います。複式2学級で統合とする場合、複式2学級は発生するとわかってからどのタイミングで統合するかはもう少し深く議論する必要があります。
- 委員 今の時点で、複式2学級で統合すると決めるのではなく、再度検討するとした方がした方がいいのではないかと。
- 委員 それでは前回と同じになってしまう。いろいろな要素が見えていないからその時がきたら再検討する、では済まされないとおもう。また先送りには出来ない。
- 委員 平成34年には人口は何人くらいになりますか。

事務局 平成 34 年はわかりませんが、20 年後には 6,000 人くらいになります。

委員 激減するのですね。であれば、こんな小さな町は小学校 1 校、中学校 1 校にしてしまえばいいのです。小中一貫校 1 校で十分だと思います。

委員長 小中一貫校は少人数の場合、特色が出てとてもいい学校になります。南伊豆中と南中小、東中と東小それぞれが連携すれば、先ほどから出ている英語の問題も解消して、とてもいい学校になると思います。

委員 町の総合教育会議でこのように議論する場がいずれ設けられるようになるのではないのでしょうか。

委員長 時間になりましたので、今回はこの辺で終了したいと思います。明確な方向性を示すところまでは今回いかなかったので、次回はこの続きを議論していきたいと思います。

事務局 今日の皆さんの意見を基に、次回素案を出しますので、また皆さんにも考えていただきたいと思います。

委員長 これで終了します。ありがとうございました。